第 17 回女性文化研究奨励賞の選考について

吉田仁美氏
『障害者ジェンダー統計の可能性: 実態の可視化と課題の実証的解明をめざして (社会福祉研究叢書)』法律文化社

(1)選考経過および選考結果
「昭和女子大学女性文化研究奨励賞」は、卒業生を含む昭和女子大学関係者に対し贈呈するものである。第 17 回研究奨励賞は、2024 年中に刊行された著作が対象であり、単行本 2 点が選考対象となった。
2025 年 2 月 6 日に開催された第 1 回研究奨励賞選考委員会で検討された後、4 月 16 日開催の最終選考会を経て、吉田仁美氏(日本大学文理学部教授、昭和女子大学女性文化研究所特別研究員)の著書『障害者ジェンダー統計の可能性 : 実態の可視化と課題の実証的解明をめざして』(法律文化社、2024 年 5 月 10 日)に、「第 17 回 昭和女子大学女性文化研究特別奨励賞」を贈呈することに決定した。

(2)受賞作の選考理由
不利な社会的属性が複数重なると、より複雑な Multiple Discrimination 複合差別あるいは Intersectional Discrimination 交差差別を経験することになる。このような現実の変革の起点として、障害者統計にジェンダー視点を取り入れる必要性と重要性を強く訴える本書の受賞理由は、主に以下の 3 点である。
第一に、国内外の先行的な研究および国際的な動向などを整理・分析したうえで、男女間に生じる格差や差別を把握・是正するのに、まずジェンダー統計が重要かつ不可欠な役割を果たすことを示した点である。とりわけ、性差別が根強い社会において、女性であることに、人種、エスニシティ、国籍、宗教、年齢、LGBTQ、そして障害などの属性が加わると、女性たちは男性よりさらなる迫害とスティグマに直面してしまう傾向にある。本書は、障害女性の「性」をないものにしないためにも、その実態を明らかにするだけでは不十分で、データで読み解くジェンダー統計の整備が Evidence Based Policy Making 証拠に基づく政策立案に、さらに障害者のエンパワーメントと自尊心を促進すると著者は主張する。
第二に、世界を例にみない、多くの種類の災害を経験している日本だからこそ、障害者ジェンダー統計をより利活用性の高いものとすることが、SDGs が目指す「誰ひとり取り残さない」社会の実現に大きく貢献できることを再認識させられた点である。加えて日本においては、障害者ジェンダー統計の整備状況は良い方向に進んではいるものの、その方法、考え方やデータ公表の範囲などが自治体によって差があること、また性の多様性が尊重され、性別欄が存在することでハラスメントや差別に通じる困難に直面する人たちへの理解と配慮が必要であることが課題として残ると著者は指摘する。
そして第三に、日本における現状と活用への方途に関する考察と提言は、障害の医学モデルから社会モデルへの転換に際して、研究にとどまらず、社会福祉教育に実践的に取り入れる可能性についても、障害者ジェンダー統計の分析の新たな方向性と挑戦の扉を開くものと大いに期待できる点である。
以上、日本における障害者ジェンダー統計のあり方に一石を投じた本書に続き、著者の今後の益々の健筆を選考委員一同心より期待している。